

中之島香雪美術館開館記念展 「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」

公益財団法人香雪美術館は2018年3月21日、大阪・中之島の超高層ビル「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」4階に、中之島香雪美術館を開館しました。

香雪美術館は、朝日新聞社の創業者である村山龍平(1850～1933)の収集した日本と東アジアの古い時代の美術品を所蔵しています。開館45周年を記念し、神戸・御影の本館に次ぐ2番目の美術館を大阪に開設して、コレクションのさらなる公開と普及を進めることとなりました。

開館から1年間は、開館記念展「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」を開催。村山が収集した美術品から、重要文化財をはじめとする選りすぐりの作品300点余りを5期にわけてテーマ別に展示し、コレクションの全容を紹介します。都心のビル内にありながら「市中の山居」を目指した、静謐で格調ある新しい美術館の空間で、珠玉のコレクションをお楽しみください。

4月28日(土)から第Ⅱ期展「美しき金に心をよせて」がスタートします。

中之島香雪美術館

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| I 美術を愛して | 2018年3月21日(水・祝)～4月22日(日) |
| II 美しき金に心をよせて | 2018年4月28日(土)～6月24日(日) |
| III 茶の道にみちびかれ | 2018年7月7日(土)～9月2日(日) |
| IV ほとけの世界にたゆたう | 2018年10月6日(土)～12月2日(日) |
| V 物語とうたにあそぶ | 2018年12月15日(土)～2019年2月11日(月・祝) |

※毎週月曜休館(祝日の場合は翌火曜日、ただし5月1日は開館)、年末年始休館

会場 中之島香雪美術館(大阪市北区中之島3-2-4、中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階)

主催 公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社、朝日放送テレビ

中之島香雪美術館開館記念展 「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」

Ⅱ 美しき金に心をよせて

中之島香雪美術館の開館記念展「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」は、朝日新聞社の創業者・村山龍平（1850～1933）が収集した美術品の中から、約300点を選りすぐり、1年間5期にわたって紹介しています。館所蔵品は重要文化財19点、重要美術品23点を数え、時代や作家を代表する名品も多くあります。これらの所蔵品に、村山家から寄託された美術品を加えた「村山コレクション」は、これまでまとまった形で紹介されたことはなく、今回が初めて全容を公開する機会となります。

オープニングを飾った第I期展「美術を愛して」（3月21日～4月22日）に続き、4月28日スタートの第II期展「美しき金に心をよせて」では、村山が心をよせた日本美術の「美しき金」の世界を、祈りや憧憬、装飾への愛着を軸にたどります。華美とは対極にあった村山の人となりを実現するように、慎ましく清らかな輝きを発する世界を楽しんでいただきます。



会 期	2018年4月28日(土)～6月24日(日) 月曜休館(祝日の場合は翌火曜日、ただし5月1日は開館)
開館時間	午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
料 金	一般900(700)円、高大生500(350)円、小中生200(100)円 *()内は前売り(一般のみ)、20名以上の団体料金 *前売り券は4月27日まで香雪美術館(御影本館)、中之島香雪美術館、 フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています。
主 催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社、朝日放送テレビ

*開館記念展(I～V期)の主要作品180点のカラー図版と解説を収録した図録を
ミュージアムショップで販売。1部2,500円(税込み)。

本展のみどころ

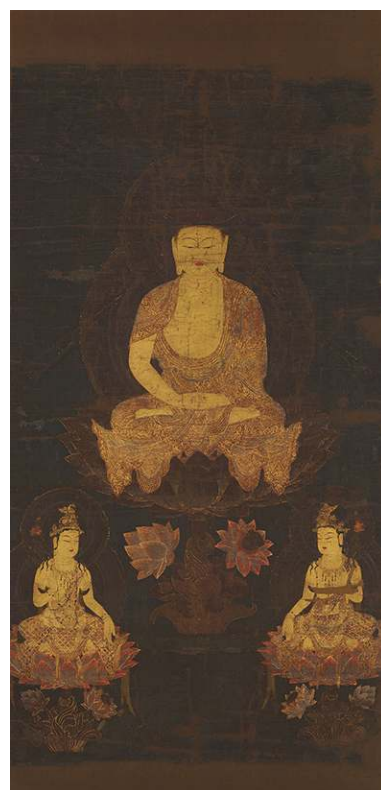
展覧会は、金で厳かにかざられた仏教美術から始まります。あどけなさが魅力の「稚児大師像」(重要文化財、鎌倉時代、13世紀)は、弘法大師空海の幼少の姿とされます。夢の中で仏と語り合ったという逸話を題材にしています。金色で縁取られた円相が童子を包み、幻想的な空間が作り出されています。金色の光を放つ仏の体は、装飾性豊かな金で飾られました。「普賢菩薩十羅刹女像」(鎌倉時代、13世紀)、「阿弥陀三尊像」(鎌倉時代、14世紀)など、金を使うことによって仏の聖性が効果的に演出されています。



重要文化財 「稚児大師像」(鎌倉時代、13世紀) 圓(前期)



「普賢菩薩十羅刹女像」(鎌倉時代、13世紀) 圓



「阿弥陀三尊像」(鎌倉時代、14世紀) 圓(後期)

桃山時代には、城郭建築に相応しい豪華で装飾性の高い金碧障屏画が空間を飾りました。柳、橋、水車や蛇籠など、古くから和歌に詠われ名所に選ばれた「宇治」を表すモチーフが描かれる長谷川等伯「柳橋水車図屏風」(重要美術品 桃山～江戸時代、16～17世紀)は、金銀を多用した装飾性や、屏風を開くと金色の大きな橋が架かる趣向が喜ばれました。また、金色の橋や宇治の平等院からイメージされる仏教的な世界にも思いが繋がります。

狩野元信・永徳「四季山水図屏風」(右隻：室町時代、16世紀 左隻：桃山時代、16世紀)では、金泥の霞が水墨の画面に奥行きを与え、控えめな四季の描写に金による光の効果加わり、晴れがましい雅趣となっています。

最後に、工芸品にみられる金の装飾を紹介します。漆工の蒔絵技法はその代表であり、「牡丹唐草蒔絵香合」(鎌倉時代、14世紀)といった小品から、「浪花花蒔絵文台・料紙箱・硯箱」(明治29年)のような大きな作品までバリエーション豊かに、時代も幅広く取り上げます。桃山時代特有の明るく軽やかな雰囲気が魅力的な「蓮池蒔絵経箱」(桃山時代、16世紀)も登場します。陶磁器では野々村仁清作「色絵忍草文茶碗」(江戸時代、17世紀)を出品します。茶碗外側の側面は素地を残しつつ銅緑釉を流し、内側の白濁釉が一部外側に流れて緑釉と重なっています。忍草は、緑と青の上絵付で描き、金彩で縁取られており、繊細な表現技法がみどころです。

※期間中、展示替えがあります。



重要美術品 長谷川等伯 「柳橋水車図屏風」(桃山～江戸時代、16～17世紀) ㊦



「浪花花蒔絵文台・料紙箱・硯箱」(明治29年) ㊦



「蓮池蒔絵経箱」(桃山時代、16世紀) ㊦



重要文化財 「レパント戦闘図・世界地図屏風」(江戸時代、17世紀)㉔(前期)



狩野元信・永徳 「四季山水図屏風」(右隻：室町時代、16世紀 左隻：桃山時代、16世紀)㉕(後期)



「牡丹唐草蒔絵香合」(鎌倉時代、14世紀)㉖



野々村仁清 「色絵忍草文茶碗」(江戸時代、17世紀)㉗

主な出展作品

記号	指 定	作 者	作 品 名	時 代	展示期間
A	重要文化財		ちごだいしぞう 稚児大師像	鎌倉時代、13世紀	4/28～5/27
B			あみださんぞう 阿弥陀三尊像	鎌倉時代、14世紀	5/29～6/24
C			ふげんぼくしじゅうらせつによぞう 普賢菩薩十羅刹女像	鎌倉時代、13世紀	全期間
D	重要美術品	長谷川等伯	りゅうきょうすいしやうびょうぶ 柳橋水車図屏風	桃山～江戸時代、16～17世紀	全期間
E			れんちまきえきぎぼ 蓮池蒔絵経箱	桃山時代、16世紀	全期間
F		日本蒔絵合資会社	なみくさばなまきえおんないりやうしぼこすずりぼこ 浪草花蒔絵文台・料紙箱・硯箱	明治29年(1896年)	全期間
G	重要文化財		せんとうざせかいちぞうびょうぶ レパント戦闘図・世界地図屏風	江戸時代、17世紀	4/28～5/27
H		狩野元信・永徳	しきさんすいずびょうぶ 四季山水図屏風	右隻：室町時代、16世紀 左隻：桃山時代、16世紀	5/29～6/24
I			ぼなんからくさまきえこうごう 牡丹唐草蒔絵香合	鎌倉時代、14世紀	全期間
J		野々村仁清	いろえしのぶぐさもんぢやわん 色絵忍草文茶碗	江戸時代、17世紀	全期間

※記号欄(A～J)は貸出写真記号

美に寄せる想い——村山龍平記念室（常設展示）

中之島香雪美術館では、^{むら やま りゅう へい}村山龍平の生涯を紹介する常設展示「村山龍平記念室」を設けています。村山の足跡を大型年表や解説パネル、映像などでたどるほか、貴重な展示品や再現展示をおりませ、村山の美への想いを立体的に感じとれる構成となっています。

みどころは、神戸・御影の香雪美術館本館敷地内にある「旧村山家住宅」紹介コーナー。洋館、和館、茶室棟^{けんなん}（玄庵）などの建物と庭園からなる広大な邸宅は、有力財界人が住まう関西屈指の高級住宅地として発展した御影にあって、明治・大正時代の姿をいまなおとどめる貴重な作例として、国の重要文化財に指定されています。

洋館^{かわい いくじ}の河合幾次、和館書院棟^{ふじい こうじ}の藤井厚二ら、当時屈指の建築家が腕を振るった建物には、施主である村山自身の意向も随所に色濃く反映され、美を愛した村山の姿を彷彿とさせます。常設展示では、全景ジオラマ模型や映像で邸宅の全容を紹介するほか、洋館2階の居間を再現展示。豪壮な洋室に竹をあしらった和風意匠の家具・調度を置くというユニークな空間構成は、村山の好みによるものでしょう。洋館の内装全体を担当した^{こばやし お}小林義雄は、日本のインテリアデザイナーの草分けとして知られ、1階食堂の椅子の背に貼られた「MADE EXPRESSLY BY YOSHIO KOBAYASHI（小林義雄謹製）」のプレートからは、小林にとっても特別な仕事であったことがうかがえます。



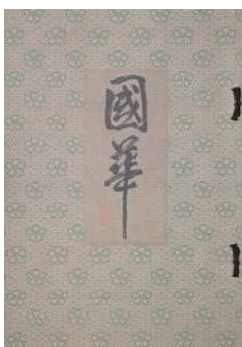
村山龍平



旧村山家住宅



村山龍平記念室 洋館2階居間の再現



国華 創刊号表紙

村山龍平と美術との関わりでは、『国華』特集展示コーナーも見逃せません。明治22年（1889）、岡倉天心らが創刊した『国華』は、現在も刊行を続ける美術雑誌として世界最古の歴史を誇ります。「夫^そレ美術ハ國ノ精華ナリ」と日本美術の復興を目指し、精巧な木版口絵や最先端のコロタイプ印刷を贅沢に使用した雑誌でしたが、すぐに行き詰まり、朝日新聞社の共同経営者で東洋美術への造詣の深い村山龍平と上野理一が全面的に経営支援することとなりました。ことに村山の『国華』への愛着は深く、新たに収集した美術品は同誌上でたびたび紹介されており、開館記念展でもその一部を展示します。

中之島玄庵～再現プロジェクト～

中之島香雪美術館の茶室展示室である「中之島玄庵」は、旧村山家住宅(神戸・御影)に建つ国指定重要文化財の茶室「玄庵」を、原寸大で正確に再現してあります。茅葺き屋根、土壁、柱など、本物と同じ材料を使い、伝統的な技法で造りました。建物の周りの「露地」についても、できる限り忠実に仕上げています。

御影の「玄庵」はもともと、藪内流家元の茶室「燕庵」(重要文化財)の忠実な「写し」です。茶の湯の世界では、この関係を「本歌」と「写し」と呼び、家元の相伝にかかわる厳粛な行為です。さらにその「写し」である中之島玄庵もまた、古田織部好みの様式を伝える貴重な茶室建築といえます。

展示にあたっては、茶室正面の土壁部分を取り外せるように造作しており、本来、外部からはうかがいにくい茶室内部の空間を、見やすく工夫しています。古田織部好みの三畳台目に相伴席の付いた間取り、十一カ所ある明かり取りの窓、三十種類余りの天然の木材など、この茶室に凝縮した茶の湯の美意識が、手に取るように感じられます。

また、茶室を囲む壁面上部には、御影の四季の風景をCG加工した映像を映し出し、自然の移ろいの中で変化する茶室の様子を楽しんでいただけます。

この再現プロジェクトは、京都伝統建築技術協会理事長で京都工芸繊維大学名誉教授の中村昌生氏が設計・監修し、元禄年間創業の安井空工務店が建てました。露地は中根庭園研究所が監修しています。「玄庵」の実測調査から材料の選定・加工、組み立てにはじまり、茅葺き、土壁の仕上げなど、プロジェクトの過程を紹介する映像も展示室で見られます。



茶室「中之島玄庵」



茶室「中之島玄庵」内部

PRESS RELEASE

中之島香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

————— 報道関係のお問い合わせ —————

「中之島香雪美術館」 担当:日置 (ひおき)

TEL 06-6210-3633 FAX 06-6210-4190 Email n-info@kosetsu-museum.or.jp

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階

取材・写真使用申込書

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 雑誌 <input type="checkbox"/> その他()	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	撮影 <input type="checkbox"/> する (撮影機材 <input type="checkbox"/> スチール <input type="checkbox"/> ENG <input type="checkbox"/> DVC) <input type="checkbox"/> しない	
備 考 特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

中之島香雪美術館 館内画像	開館記念展 作品画像
中之島香雪美術館 資料画像	ロゴ画像

注 意 事 項 企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。
原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報事務局宛に確認のためお送りくださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。

申 込 先 「中之島香雪美術館」 担当:日置(ひおき)
TEL 06-6210-3633 FAX 06-6210-4190 Email n-info@kosetsu-museum.or.jp
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階